

## 本時のねらい

わたしたちのすんでいる地いきにどんな建物や施設があるかを見つける

## 本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

・通学路で見つけた「すてき」を、Jamboard を使ってシェアし合うことで、通っている小学校区の「すてき」を知る。  
・ミライシード上での前時のふり返しから、本時を展開していくことで、課題解決に向けた主体的な学びの実現を図る。

## 活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・ 大型提示装置                      ・タブレット                      ・ミライシード
- ・ Google classroom              ・Google Jamboard

## 本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (10分)	前時のふり返し（課題）から見つけたものを入力する。 本時のめあて 「わたしたちのすんでいる地いきに何があるか見つけよう」  【写真1】	ミライシード上の前時の学習活動から、Jamboard で通学路の「すてき」をふせんで付け加える 見てきたことを端末上でメモとして形にしておく
展開 (25分)	教科書を開いて、校区にもあるものを確認する。 ペアで教科書を見ながら校区にあるものをシェアする。 →発表（黒板に書きだす） 教科書から校区にないものを出し合う。 Jamboard を見ながら、友だちの通学路の情報（花屋、公園などがあるか）も確認する。（個人、ペア 子どもが選ぶ）  【写真2】	教科書とJamboard の情報を見比べて、通学路にある「すてき」を探す。
まとめ (10分)	ミライシードを用いてふり返しを行う ふり返りの共有（意図的に指名して発表）  【写真3】	次の学びである「町探検をしてもっと知りたいこと」をふり返しとして入力することで次の時間につなげる。

## 1人1台端末を活用した活動の様子



【写真1】 本時のめあてを確認する



【写真2】 Jamboard で通学路の「すてき」を交流する



【写真3】 ミライシードでふり返しを共有する

## 児童生徒の反応や変容

タブレットを活用することで前時の内容をすぐにふり返ることができ、課題への関心が高まっていた。また、Jamboard で通学路の「すてき」を共有したことで、気づきを大切にしながら主体的な学びを実現することができた。タブレットをくり返し使い続けることで、「手書き入力」「フリック入力」「タイピング入力」と自分に合った入力方法を見つけていた。

## 授業者の声～参考にしてほしいポイント～

タブレットを使って友だちと交流するにあたって、「聞くとき」「話すとき」「Jamboard を使うとき」など、日ごろから子どもたちとルール作りを行うことで、主体的な学びの実現を図っている。子どもたちにとってタブレットが便利な文具となるように、タブレットを日常的に授業で使うことや必要性や利便性に気付かせることを大切にすれば、2年生でも上手に扱うことができる。